

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立八幡中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

- 期 日：平成30年9月11日（火）
- ク ラ ス：2年1組（35名）
- オリンピアン：坂井 克行 先生（ラグビーフットボール）



■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、3つのオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を簡単に紹介。
- ・ストレッチの後、ラグビーボールを使用したボール送りリレーを実施。坂井先生から相手が受け取りやすいように意識することを伝える。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班に分かれてオフサイドタッチを実施。
- ・審判役の坂井先生から声を出すことや前に走ること等をアドバイスし、試合を見ている班からもファインプレーに対して自然と拍手が起こっていた。

4. まとめ



- ・初めてラグビーボールを触る生徒が大半で、ラグビーフットボールは「投げる」「走る」等様々な要素が複合された難しいスポーツではあるが、皆とても上手だったと伝え、授業を終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・ラグビーフットボールについてもっと知ってほしいと話し、4位入賞したリオデジャネイロ大会の映像を見せながら競技のルールや当時の心境、日本代表選手等について紹介。
- ・オリンピック選手は小さなころから優れているというイメージを持っているかもしれないが、坂井先生は自分の夢に向かって全力で取り組んできた結果、オリンピックに出場できたと話し、全力で取り組むことやコツコツと努力を重ねること、チームワーク、フェアプレー等が大切だと話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：体育祭で勝つために取り組みたいことを考えよう。

発表：一人一人が全力を尽くす、最後までやり遂げる、練習から全力で取り組む(エクセレンス)、コミュニケーションを積極的にとる、会話を増やしてお互いを理解する、励ましあう、全員が楽しむ(フレンドシップ)、同じチームの人に感謝、ルールを守る、支えてくれる人に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックバリューは体育祭に限らず日常生活にも活かすことができ、全力で頑張ることや努力した過程が大切である。うまくいかないことがあっても、そこから得られるものも多いので、今日学んだオリンピックバリューを忘れずに頑張してほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日：平成30年9月11日（火）
- ク ラ ス：2年2組（33名）、2年3組（32名）
- オリンピアン：小口 貴子 先生（スケルトン）



■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、ボブスレー、スケルトン、リュージュのそり競技について紹介。
- ・3つのオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について、座学の時間に詳しく説明するので、運動の時間は「全力で取り組む」「皆で協力し合う」「ルールを守る」という3つを約束。
- ・ストレッチを行った後、じゃんけん勝ち抜けを全3回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを全3回実施。各回終了後に回数を発表し、より回数を増やすために作戦タイムを設けチームごとに話し合う。
- ・小口先生から「縄を早く回す」「むしろ縄をゆっくり回す」等の様々な作戦があるとアドバイス。

4. まとめ



- ・皆で考え、話し合いながら作戦を練り、集中して声をかけ合いながら、制限時間ギリギリまで全力で頑張っていたと伝え、3つの約束事がしっかりと守れていたと話す。
- ・座学の時間には、運動の時間に行った内容を掘り下げ、小口先生の経験も交えながらオリンピックについて更に学ぼうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・平昌大会の競技映像やウェア、スパイク等を見せながら、スケルトンについて紹介。
- ・競技生活の中で得られたオリンピックバリューとして全力で取り組むこと、海外選手(ライバル)と協力して高めあったこと、支えてくれた人への感謝の気持ちを伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：体育祭でクラスが勝つには実践したいことをオリンピックバリューに当てはめて考えよう。
- 発表：練習から本番のように全力でプレーする、自分の課題を見つける、最後まで諦めない(エクセレンス)相談し協力し合い気持ちを高める、皆の意見を取り入れチーム力を高める、一致団結、全力で応援する(フレンドシップ)、ルールを守り悔いのないように取り組む、ライバルとの友情や敬意を大切に、支えてくれた人に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけではなく、皆の日常生活の中にもあると伝える。小口先生は支えてくれる人がいなければ競技を続けることができなかったが、自分を理解し応援してくれる仲間がいたからこそ、オリンピック出場の夢が叶ったと思っている。
- ・皆も何かしようと頑張っていたり、困っている人がいたら助けてあげてほしい。これからもオリンピックバリューを活かせる場面を日常生活の中で探してほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年1組



2年2組





■ 集合写真
2年3組



■ 記念品贈呈
2年1組



2年3組



2年2組



■ 修了証贈呈

